



<http://www.namiki-masatoshi.com/>

討議資料

なみき
並木まさとし

46号



ナイスショット通信 第46号

発行者 埼玉県議会議員 並木正年 〒365-0038 埼玉県鴻巣市本町3-2-19-B
TEL 048-541-7777 FAX 048-543-8000 namikimasatoshi@soleil.ocn.ne.jp

議案調査で川口市の SKIP シティにある「彩の国くらしプラザ」、所沢市の「航空記念公園」、小鹿野町の「埼玉県山西省友好記念館(神怡館)しんいかん」、秩父市にある酒造会社「ベンチャーウイスキー」秩父蒸溜所である「イチローズ・モルト」、秩父市と小鹿野町にまたがり県が管理している「合角ダム」に足を運びました。

神怡館は平成4年に旧両神村(現小鹿野町)に埼玉県と山西省の友好県省締結10周年を記念して建設されましたが、入場者数の大幅な減少と施設の大規模改修が必要となるため県条例を廃止しました。

これまで山西省の歴史・文化・自然などを広く紹介して交流事業を活発におこなってきましたが、建物や土地は県の普通財産ですので、今後の活用については地元町や団体などが検討していく予定です。

ベンチャーウイスキーは上田知事も「とことん訪問」で訪れた会社です。この会社が作ったウイスキー(1つのカスク(樽)から取り出したモルトウイスキー)が本場イギリスのウイスキー専門誌「ウイスキーマガジン」の品評会で最高得点のゴールドアワード(世界一)に輝き、とても人気が出ているようです。また、地元産の原料を使い、瓶詰めまでおこなっている会社は全国唯一とのことでした。

今後も現場を訪ねることで新しい発見や課題から安心・安全・元気な埼玉・鴻巣を目指して参ります。



イチローズ・モルト



神怡館(しんいかん)



埼玉県生活科学センターくらしプラザ



所沢航空記念公園



電線・電柱の地中化「無電柱化」の推進



鴻巣駅の東口から国道17号までの道路は多くの市民をはじめ、免許センターを利用される方や児童・生徒の通学など、安全な歩行空間の確保が必要な県道です。(鴻巣警察署から免許センターまでの道路は市道)

埼玉県が管理している道路延長約2,800kmのうち、無電柱化の整備延長は昨年度末で約52km(15カ所で工事着手)となっています。

現在、市が進めている市街地再開発事業に合わせて市と県が道路の拡幅と中山道交差点の改良をおこなう予定ですので、今後、整備が予定されている街区公園の役割りからも防災・減災、観光力、景観形成のために電柱の地中化を推進していきたいと考えています。

ハッ場(やんば)ダムの現状



県土都市整備委員会でハッ場(やんば)ダム(平成31年度完成予定)の視察を行いました。ハッ場ダムは昭和27年に利根川改修計画として調査を開始、昭和45年に建設事業が着手されてから47年が経過しています。1都5県(東京都・埼玉県・千葉県・茨城県・栃木県・群馬県)が治水負担金を支払い、栃木県を除く1都4県が利水負担金を支払っています。(治水・・・堤防やダムを築いて災害を防ぐ)

事業費は合意した当初は2,110億円でしたが、消費税や発電などの変更によって平成16年には4,600億円、昨年度は5,320億円に増額変更(埼玉県の負担分は88億円)され、現在は家屋移転99%(468世帯)用地取得97%、付替鉄道(JR 吾妻線10,4km)と同国・県道(22,8km)が100%の状況です。

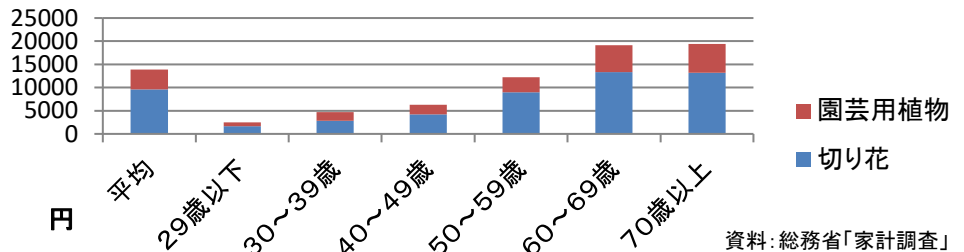
ハッ場ダムは本県にとって治水や利水の両面で必要不可欠な施設ですが、相次ぐ増額変更に対して県議会では早期の完成と工事費をこれ以上増額しないよう国に求める決議をおこなっています。

今後も徹底したコスト縮減に取り組み、総事業費を圧縮し、安全な作業のもと早期の完成を進めて欲しいと感じます。*現在は毎日約800名を超える作業員が働いており、約5割の進捗状況となっています。



花き産業の振興

世帯主年齢別年間購入金額(H27年)



東日本随一の規模を誇るフラワーセンターで冬季品評会がおこなわれ、地元の鴻巣産や全国の生産者が育てたシクラメンや鉢物・苗物、装飾アレンジなど、各部門が生産者や専門家の目利きにより審査されました。

埼玉県の花・植木の生産は東京都に隣接していることで消費や輸送に有利なうえ、日本一晴れの日が多く、自然災害も少ない恵まれた自然条件を背景として盛んにおこなわれています。苗物においては鴻巣市が古くから大産地を築いており、プリムラ類やパンジーの産出額は全国1位を誇っています。

総務省の家計調査によると花の消費動向は、1世帯当たりの切り花の購入額、鉢花や花壇苗などの園芸用品の購入額共に平成10年をピークに減少しています。(国民1人あたりの年間平均購入額は約14,000円)

特に若年層は花のある生活から離れているため、今後は花文化の普及による取り組みが必要です。ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックなどのビッグイベントを契機とした需要拡大と共に、会社や家庭での花飾り、玄関先の花壇整備などに取り組み、日常的に花のある生活を定着させたいですね。

プロフィール

昭和45年(1970年)9月鴻巣市本町生まれ/鴻巣幼稚園/鴻巣東小学校/鴻巣中学校/埼玉栄高校(サッカー部)/亜細亜大学経済学部国際関係学科卒/セントラルワシントン大学AUAP課程修了/鴻巣幼稚園保護者会副会長/鴻巣東小PTA副会長/鴻巣市商工会青年部第31代部長/第8回こうのす花火大会代表/鴻巣市消防団第2分団員(21年目)/鴻巣市議会議員2期/H27年埼玉県議会議員初当選/県土都市整備委員/人材育成・文化・スポーツ振興特別委員/図書室委員/家族・妻・長女(大学生)・長男(中学生)・愛犬レオ